

# 日本家庭医療学会会報

第62号

発行日 2008年2月25日

ホームページ : <http://jafm.org/> E-mail : [jafm@a-youme.jp](mailto:jafm@a-youme.jp)

## 第15回 家庭医の生涯教育のためのワークショップ

### 第15回 家庭医の生涯教育のためのワークショップ

開催日時 2007年11月10日(土)~11日(日)

会場 天満研修センター (大阪市北区)

参加者数

#### 【プログラム】

1日目(11月10日)

#### 「一度見れば忘れない SpPin な身体所見」

大船中央病院 須藤 博氏



### ワークショップを終えて

生涯教育委員会 担当理事 雨森 正記  
(医療法人社団弓削メディカルクリニック)

平成19年11月10日11日に大阪市天満研修センターにて第15回家庭医の生涯教育のためのワークショップが開催されました。今回も全国から270名を超える皆様に参加いただきました。10日の大船中央病院の須藤博先生の講演を皮切りに11日には21のWSが行われ参加者の皆様との熱い討論が交わされました。今回は特に面白いWSが多かったため、参加者の皆様には3WSを選択していただくのに大変ご苦労いただいたこととお詫びいたします。今回特に好評をいただいたWSを来年度の当セミナーや地域でのセミナーに生かしていきたいと考えております。

当日の講演のうちの一部の要約は次頁のようです。

### ～この号の主な内容～

第15回家庭医の生涯教育のためのワークショップ報告	1	学会認定後期研修プログラム(バージョン1.0)の解釈について	16
第3回家庭医療後期研修プログラム指導医養成のためのワークショップ報告	4	平成20年度・臨床研究初学者のための勉強会案内	18
3学会合同役員会議報告	7	平成20年度 第1回 家庭医療後期研修プログラム 指導医養成のためのワークショップ案内	19
第1回田坂賞受賞者決定のご報告	8	役員選挙のお知らせ	19
平成19年度 第3回日本家庭医療学会理事会議事録	9	リレー連載「診療所研修」 三重県立一志病院パート2(後期研修)	20
第23回日本家庭医療学会学術集会・総会案内	13	生涯学習に役立つツール特集	22
		Scene 発行のお知らせ	23
		事務局からのお知らせ	24

【プログラム】

2日目 (11月11日)

1. 新しい創傷治癒  
夏井 睦氏
2. 神経診察よろず相談  
池田正行氏
3. 素人漢方 家庭医和漢  
守屋章成氏
4. 虫や動物による皮膚疾患  
和田康夫氏
5. 家庭医による婦人科診療  
藤岡洋介氏・新井隆成氏
6. 頭痛オタクが教える○×△クイズ形式慢性頭痛講座!  
木村眞司氏
7. 外来診療現場での教育～5つのマイクロスキル～  
朝倉健太郎氏・岡田唯男氏
8. 在宅緩和医療に求められる臨床能力  
木澤義之氏
9. 知ってほしい!! 航空機内での急病人に対する医療体制  
～日々の診療に役立つ疾患への知識も～  
佐藤健一氏
10. Shared Decision Making: 診療における新しいパラダイム  
神保真人氏
11. はい!あーんと口開けて  
— 子どもの咽頭写真を、みんなで見ませんか —  
梅本正和氏
12. 学会賞をとるための7つのステップ  
福原俊一氏
13. 日常診療にNLPを生かす!  
玉城浩巳氏
14. 家庭医だからこそ禁煙支援を!  
高橋裕子氏・三浦秀史氏
15. 家庭医の為の肩・肘の診かた  
仲田和正氏
16. 神経学における視診のこつ  
池田正行氏
17. 心電図が正常(または異常)の臨床的意義を考える  
伊賀幹二氏
18. ここまでわかる関節診察～Hands-Onセッション～  
岸本暢将氏
19. 血尿を攻略する方法、一緒に考えましょう!  
横井 徹氏・松木孝和氏
20. 家庭医のための眼底鏡・耳鏡の使い方  
—正しい見方で確実な所見を—  
鈴木富雄氏
21. 気道症状診療レベルアップ  
～耳鼻咽喉科領域の所見の取り方と診断・治療  
上出洋介氏

一度見れば忘れない  
SpPin な身体所見



大船中央病院 須藤博先生

手から始まって目、首、胸部、腹部、それに健反射に至るまで、日常私たちが外来で出会う特徴ある所見を写真や動画でわかりやすく解説していただいた。教科書には書いているが十分な観察をしないと見落とすような所見を、熱意を持って観察し記録することで、日常診療がこんなにも面白くなるのだと実感し、翌日からの診療に役立つものだった。

素人漢方 家庭医和漢



ぎふシティ・タワー診療所 守屋章成先生

漢方薬を処方できる学会会員は多くないと考え、初心者向けの漢方講座を企画しました。参加者が明日から漢方薬を処方(勉強)する気になって頂くためには純家庭医でかつ漢方薬処方を実践しているDrがよいと考え守屋Drに白羽の矢を立てました。参加者の事後アンケートでは非常に好評で再企画のリクエストが多数ありました。

虫や動物による皮膚疾患



赤穂市民病院 和田康夫先生

豊富な写真とビデオを交えながら、海のもの、山のものに分けて大変わかりやすい内容だった。クラゲ皮膚炎は受傷後間違って水をかけると刺胞がはじけて大変危険であり、酢を用いるという話は大変印象的であった。ダニや疥癬についても先生が独自に行った臨床実験や疫学研究の結果をご披露いただいた。日常臨床へすぐ生かせるため、満員の会場から非常に多くの質問があった。

## 在宅緩和医療に求められる 臨床能力



筑波大学 木澤義之先生

冒頭では在宅緩和医療の今後についてのお話し、次に乳癌患者症例に対して、問題点、疼痛管理方法についてのグループディスカッション、最後のがん性疼痛についてのレクチャーでした。実際の症例をもとにしたディスカッションがあり、緩和医療への興味がより深まる内容でした。

## 心電図が正常（または異常） の臨床的意義を考える



伊賀内科・循環器科 伊賀幹二先生

「心電図が正常（異常）であるのと、心臓が正常（異常）であるというのは意味が異なる。」この結論に集約される症例を多数交えながら大変わかりやすく説明いただいた。心電図を解釈するためには、病歴や身体所見、その他検査の結果を組み合わせる総合的に判断しなければならないことを再認識することができた。

## 知ってほしい!! 航空機内 での急病人に対する医療体制



関西リハビリテーション病院 佐藤健一先生

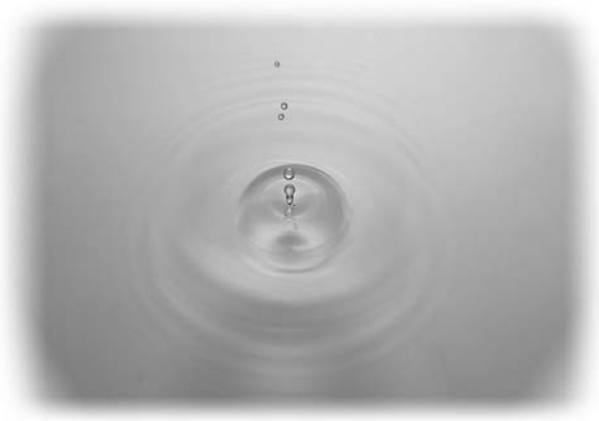
このWSは、航空機内環境が体に及ぼす影響と起こりうる病態、実際に搭載している医薬品・医療器具の展示・説明、緊急時の機内での対処、などのレクチャーに加え、日本航空の方々から直接現場の声をきくこともでき、大変興味深い内容でした。機内から地上の医師と相談ができるなど、今まで知らなかったことが非常にたくさんありました。

## ここまでわかる関節診察 ～ Hands-on セッション～



亀田総合病院 岸本暢将先生

とくに関節リウマチの際に診るべき関節の診察方法について、関節ごとにポイントをあげながらデモンストレーションを行っていただき、同時に受講者が2人1組になって実際に診察していくという流れでした。わかりやすく、実際の診療でもすぐに使える内容でした。



# 第3回 家庭医療後期研修プログラム指導医養成のためのワークショップ 報告

## 第3回 家庭医療後期研修プログラム指導医養成のためのワークショップ

期日 平成19年12月1日(土)～2日(日)  
場所 TKP 銀座ビジネスセンター カンファレンス8A

### 《内容》

#### ■ 12月1日(土)

「家庭医療における外来診療教育モデルを学ぶ」

講師・ファシリテータ:

- 藤沼康樹先生(日生協医療部会家庭医療学開発センター所長)
- 西村真紀先生(あさお診療所)
- 安来志保先生(日生協医療部会家庭医療学開発センターフェロー)
- 高橋 慶先生(同センターフェロー)
- 森永太輔先生(同センターフェロー)
- 原 穂高先生(同センターフェロー)

#### ■ 12月2日(日)

「EBMの教育と研究」

講師: Jennifer Anne Doust

(オーストラリア、クイーンズランド大学家庭医療学科准教授)

通訳・進行補助: 葛西龍樹

(副代表理事、福島県立医科大学 地域・家庭医療部教授)



### 1日目

## 家庭医療における 外来診療教育モデルを学ぶ

報告

安来志保、森永太輔、  
原 穂高、高橋 慶

(日生協医療部会家庭医療学開発センターフェロー)

第3回家庭医療後期研修プログラム指導医養成のためのワークショップが2007年12月1日に開催された。WSは①グループディスカッションで外来指導のニーズを共有、②外来指導法として生物心理社会モデルとClinical Handの紹介ならびに実践、③まとめとして自施設の外来教育をどう変えるか、行動計画を立てる、の3部構成で行われた。

1. 最初に「家庭医療らしい外来診療って何だ?何を教えたら良いの?」というテーマでスモールグループディスカッションを行った。まず、ある日の研修医の外来風景をビデオレビューしているという設定でフェローがデモンストレーションした。そして、この研修医について、よく出来ている点や改善した方がよい点、どういうところが家庭医らしかったかなどを挙げ、普段の自分だったらどういう風に指導しているのかをグループ内でディスカッションした。そのディスカッションを踏まえ、普段の外来診療指導で、困っているところなどを各自挙げ、家庭医らしい外来指導におけるニーズを共有した。その中で、「忙しくてなかなか指導の時間が取れない」「普段は家族図を使用していない」「患者の背景を考えることをどう指導すれば良いのか分からない」「研修医のよい点を見つけるのは難しい」などの意見が出た。

## 2. BPS

生物心理社会モデルは、前半で医療生協家庭医療学開発センターの藤沼先生による Biopsychosocial (BPS) model の講義を行い、後半ではグループで BPS を意識した模擬カンファレンスを行うという 2 本立ての内容であった。

講義では、家庭医らしい外来診療および外来診療教育のモデルとしての BPS アプローチが生まれてきた背景から、現在の BPS アプローチで語られている内容まで学習することができた。いわゆる病歴以外にも患者の物語や生活環境を聴取し、生物・心理・社会の領域を個別に考えるのではなく、それぞれのつながり合いを理解して統合し、その事例で問題になっていることに焦点を当てることが重要である。

また困難な事例にはケアを行う際にも、関係性が中心であることを認識し、多職種によるチームアプローチなどの多面的な治療が必要であること、自分（医師）自身を知り自身のバイアスやスタイルに気づくことが重要であることを参加者で学習した。

その後の模擬カンファレンスでは、センターのフェローが模擬研修医として、複雑な背景のある事例をプレゼンテーションし、参加者が模擬家庭医指導医としてカンファレンスを組み立てるといったものであった。前半で学習した BPS の概念を使いながら、事例の生物・心理・社会の領域の問題を統合していかに指導するかについてディスカッションをすることができ、参加者が家庭医療指導医として自身の教育の場で活かすことのできる実践的な内容であった。

## 3. Clinical Hand

次に Clinical Hand を用いた外来指導法について、講義と模擬プリセプティングが行なわれた。Clinical Hand とは、医師患者関係を中心とするケア (relationship-centered care) を提供する際の指針となる項目を「手」を用いて表したものである。例えば、手を開くことは癒そうとする意思を表すものであり、握る力は診療の力と権力を表し、5本の指はそれぞれ患者との接触、交渉、治療の提案の受け渡し、今後の見通しの検討、



医師の感情の整理を表す、などである。

今回のワークショップではまず講義が藤沼先生から行なわれ、次に BPS と同様にフェローを模擬研修医にみだた模擬プリセプティングが行なわれた。

模擬プリセプティングでは、膀胱炎の女性の例などのごくありふれた症例が示され、その患者さんをみた研修医に対し、Clinical Hand を用いてどう指導するかを学習することができた。Clinical Hand という概念はほとんど知られていなかったが、模擬プリセプティングによって実際に使いながら指導することで理解を深め、「新しい概念であり興味深かった」という感想も得られた。

## 4. まとめ

最後に、自施設の外来教育をどう変えるか、三人一組となり行動計画を立てた。カンファレンスや日常診療に BPS アプローチを取り入れたい、多忙な外来でも研修医のプリセプティングに Clinical Hand を意識したい等、明日の教育・診療に活かせる意見も出された。今回のワークショップが講義中心でなく、模擬カンファレンスや模擬プリセプティングを交えた実践的で双方向的な内容であったことも影響しているだろう。

5 時間を越える長丁場かつ非常に濃密なワークショップであった。なかには消化不良の参加者もいたかもしれない。そのような方や今回参加されなかった方にはこのダイジェストと学会ホームページからダウンロードできる当日の資料を参照して頂きたい。初めての参加者も多かったが全体に和やかな雰囲気が漂い、概ね好評を得ることができた。

2日目

## EBMの教育と研究

報告

葛西龍樹

(副代表理事、福島県立医科大学 地域・家庭医療部教授)

学会認定の後期研修プログラムでは、「家庭医を特徴づける能力」の中に「効率的な医療」としてEBMの実践を定めており、このセッションでは、家庭医療とEBMのエキスパートであるDoust先生の協力で、家庭医療の教育でエビデンスを「使うこと」(EBMの実践)と「生み出すこと」(家庭医療の研究)をどう教えるかについて考えることをテーマに取り上げて行われた。

Doust先生の「Research and family medicine」と題する講演では、まずオーストラリアの家庭医療とその教育の状況が紹介された。次に医学の情報量が膨大であること、研究と診療の間のギャップ、さらには臨床医が良い研究をいかに見いだせないかが示され、EBMの実践とその教育のために英国（オックスフォード大学のEBM

センター長のPaul Glasziou教授はかつてDoust先生の上司だったことがある）とオーストラリアで行われている「Evidence based journal club」が紹介された。自分の診療からの疑問を出し合い、その中からいくつかを選んで情報収集と批判的吟味を経て出された結論を実際の診療に応用し、その診療を振り返るというEBMの5ステップに沿った実践で、ステップ1（問題の定式化）とステップ5（診療行為の評価）を重要視しているところがポイントである。

その後はグループに分かれて、それぞれ日本の家庭医療の後期研修プログラムの設定でどのようにEBMの実践を教育していけるかを話し合った。

エビデンスを生み出す家庭医療の研究については入り込む時間がなかったが、これについては、今年の学術集会（平成20年5月31日～6月1日）でリサーチについてのシンポジウムとワークショップが開催されるので、楽しみにしてほしい。

なお、今回のDoust先生の招聘は、福島県立医科大学が行う「地域医療等社会的ニーズに対応した医療人教育支援プログラム」(文部科学省)採択事業の家庭医養成プロジェクトから助成を受けた。



## 3学会合同役員会議 報告

日本家庭医療学会 代表理事 山田隆司

さる1月20日(日)、東京都医師会館4階会議室において日本家庭医療学会、日本プライマリ・ケア学会、日本総合診療学会の3学会合同役員会議が開催された。これまで上記の3学会では合併に向けて執行部(正副会長、正副代表理事、正副運営委員長)が協議を進め、それを受けてそれぞれの学会で、理事会や運営委員会などで前向きに議論がされてきた。その中で合併そのものについては役員レベルで概ね合意されているものの、合併に関わる具体的な事項(合併後の学会名、組織、合併の行程等)については検討がなされておらず、それぞれの学会ごとにその認識に若干のズレがあることが懸念されていた。

そこで今回3学会の役員が全員、胸襟を開いてディスカッションすることが提案され、ワークショップ形式で合併に向けての話し合いの場を持ったのである。ワークショップ1では合併の必要性、またその目的、新学会の理念について、同2部では新学会の名称、組織、合併のプロセス等について協議がなされた。

合併の必要性、目的についての協議では、現在患者に身近で幅広く総合的に診療できる医師の必要性が求められており、そのような役割を担う医師を国民に向かってわかり易くアピールするためにも、3学会は合同して活動することが適切であろうことが確認された。

また学会の合併のプロセスについては、正式にはそれぞれの学会の総会において合併の承認がなされる必要があること、また分科会、委員会、ワーキンググループ(法人化、認定制度については既設)などを前もって組織し活動することなどが提案された。

学会名については「日本総合医療学会」であるとか、当初は「日本プライマリケア・家庭医療・総合診療学会」ではどうか、またコメディカルを含めた学会として「日本プライマリ・ケア学会」を残し、医師部会を「家庭(総合)医療学会」としてはなどという提案がなされた。

丸1日かけての議論であったが、グループ討議では各学会役員同士が真剣な議論を繰り広げ、議論が進む中で互いに認め合い共に協働することで一体感が増したことはまさに大きな収穫であった。参加者全員が新しい連帯感を培ったのではなかろうか。新時代を迎え、同志が増えたことに頼もしさを感じたのは私だけではないだろう。



# 第1回 田坂賞受賞者 決定のご報告

第1回田坂賞について、家庭医療学会会員、TFCメーリングリスト会員からの公募による一次選考で10名の推薦があり、その中から選考委員会によって二次選考に選ばれた3名の方に、活動履歴と家庭医療に関するエッセイを提出いただき、それをもとに、選考委員会で検討し、以下のように決定しましたので、ご報告致します。

## 第1回 田坂賞受賞者

岡山市 安田内科医院 安田英己先生

受賞理由は以下の4点です。

- 1、医学生・研修医に緩和ケア・認知症ケア・後期高齢者ケアへの実践を経験してもらい家庭医療を好きになってもらう教育に貢献されてきてこと
- 2、医師としての賞味期限は切れてないか？をいつも自問自答しながら生涯学習を続けられている姿
- 3、グループ診療のあるべき姿を示してこられたこと
- 4、地域の多職種との連携、地域医師とのネットワーク作り

安田先生おめでとうございます。

安田先生には、今年6月の家庭医療学会中の田坂賞授賞式で10分ほどの記念講演をしていただく予定です。

改めて選考にご協力いただいた多くの皆様に感謝します。

そしてこの賞が、田坂先生を目指された、家庭医療の実践、教育、専門医や多職種との連携などによる、よりよい日本の医療の推進につながることを願います。

第2回の田坂賞も、昨年と同じ12月に一次公募を行う予定です。今年と同様、田坂賞にふさわしい方の推薦をよろしく申し上げます。

田坂賞選考委員会委員長  
白浜雅司



# 平成 19 年度 第 3 回日本家庭医療学会理事会議事録

日 時：平成 19 年 11 月 11 日（日）8:00～11:00

会 場：天満研修センター 8 階 801 号室

出席者：代表理事 山田隆司

副代表理事 竹村洋典、（以下は、委任状による出席）葛西龍樹

理 事 雨森正記、生坂政臣、岡田唯男、亀谷 学、草場鉄周、小林裕幸、西村真紀、伴信太郎、藤沼康樹、森 敬良、山本和利（以下は、委任状による出席）大西弘高、白浜雅司、松下 明、三瀬順一

幹 事 福士元春

オブザーバー 阪本直人（松下 明代理）

（以上、敬称略）

理事会定数 18 名中 18 名（うち委任状出席 4 名）の出席により、理事会成立

## 1. 会員数報告、新入会員承認、会費未納退会者

山田代表理事より、10 月 31 日現在の会員動向について、7 月末から 10 月までの 3 ヶ月間で 114 名の新入会者を迎え、昨年と同時期より 320 名余り会員数が増加したことが報告された。

つづいて退会者および年会費未納者について報告があった後、新入会者について承認された。

会員数：1,649 名（うち、医師会員 1,505 名）

入会者： 114 名（2007年7月26日～2007年10月31日）

退会者： 1 名（2007年7月26日～2007年10月31日）

未納者： 100 名（H16 まで納入済）

会費未納率：32%（2007年10月31日現在）

## 2. 平成 19 会計年度中間報告

山田代表理事より、平成 19 年度会計年度の中間報告があった。収入の増加について、会員数の増加により正会員の会費収入が増えたこと、第 22 回学術集会にて収支差額が黒字となったことから当初見込んでいた 200 万円の補助金が必要なくなったこと、後期研修プログラム登録料収入および SCENE の販売収入などが要因となったことが述べられた。

プログラム登録料収入の用途についての質問に対しては、あくまでプログラム関連の事業に還元することが述べられた。また、3 学会合併後の資産の扱いについては、会員に説明できるような協議を進めるが、現時点では報告できるところまで協議されていないことが述べられた。

## 3. 常設委員会・部会報告

### ◎編集委員会

藤沼理事より、来月発行に向けて会誌の発行準備を進めていることが報告された。また、医学中央雑誌刊行会への登録を検討していることが述べられたことに対し、登録による制限（学会 WEB サイトでの公開など）がないかとの質問が出され、調査する必要があるとの回答がなされた。

その他、学会誌の査読について、従来は編集委員会メンバーにて行っていたが、今回は間に合わなかったことから理事の先生方に査読をお願いした旨の経緯が報告され、今後も理事に査読を依頼する意向が述べられた。

### ◎広報委員会

山田代表理事より、WEB 担当について、三瀬理事より理事に協力依頼があったことが述べられた。

この件について理事以外であっても学会活動を行っている会員を選任する選択肢が示され、協議された結果、現在学会 ML を通じて応募を募っている WEB 担当メンバーの公募状況をみて判断することとなった。

### ◎生涯教育委員会

伴理事より、昨日、生涯教育委員メンバーのほか、イベント開催時の企画立案運営を行う協力委員が参加して拡大委員会を開催したことが報告された。

- ・来年度（第16回）の生涯教育ワークショップは、平成20年11月8-9日に、今回と同じ天満研修センターで開催予定であり、引き続き雨森先生が担当となって今年度よりも参加者数の規模を拡大した形で準備を進める方向であることが述べられ、以上について承認された。
- ・サテライト生涯教育ワークショップという位置づけで、会員が各地域でワークショップを開催する際に利用していただく講師バンクの設立について提案があり、協議された結果、生涯教育委員会でリストを作成し、理事会で承認することとなった。
- ・サテライト生涯教育ワークショップの開催にあたり、スポンサーをお願いすることについて提案があり、協議された結果、まず一例でも実績を作ったうえで今後ルールを検討していくこととなった。
- ・サテライト生涯教育ワークショップを学会が共催することについて議論がなされ、協議された結果、理事メールで承認を得る形をとることとなった。
- ・「PATIENT-CENTRED PREVENTIVE MEDICINE」の発行について、日本家庭医療学会監修として出版することが提案され、この件については前回の理事会で承認された旨が報告された。

#### ◎研究委員会

山本理事より、研究初学者のためのワークショップを4回開催で企画していることが方向された。

#### ◎倫理委員会

山田代表理事より、申請を受けている報告がない旨が述べられた。

#### ◎後期研修認定委員会

- ・竹村副代表理事より、担当委員の変更について提案がなされ、承認された。  
変更後の担当委員は大西理事、葛西理事、亀谷理事、竹村理事（以上五十音順）の4名。
- ・竹村副代表理事より、平成20年度後期研修プログラム認定の締切日を平成20年1月15日として開始することについて提案があった。

- ・第1回プログラム責任者の会を開催したことが報告され、現在、関東と東京に分かれている地域ブロックを一ブロックとして扱って欲しいという要望があったことが述べられた。この件について、プログラム責任者を対象にアンケートを行った結果、一ブロックとして扱うことが望ましいとの意見が多かったことが報告され、承認された。
- ・プログラム責任者の会の規約案が示され、会の位置づけ（理事会や委員会との関係）に矛盾点がある点が問題提起され、訂正した上で理事用メーリングリストに訂正版を配信することとなった。

#### ◎FD委員会

竹村副代表理事より、担当委員の変更について提案がなされ、承認された。

変更後の担当委員は岡田理事、草場理事、藤沼理事、吉村学委員（以上五十音順）の4名。

また、ワークショップの開催については早い時期に開催要項を告知することについて要望があった。

#### ◎若手家庭医部会

冬期セミナー担当の飛松先生より、第3回冬期セミナーの開催概要について説明があった。認定プログラムの研修医を対象とした優先受付や会合などについて提案があり、前向きに検討されることとなった。

#### ◎学生研修医部会

小林理事より、第19回夏期セミナーについて報告され、会計報告は次回に行うことが述べられた。

第20回夏期セミナーについて、平成20年8月9～11日に開催を予定していることが報告された。夏期セミナー準備委員会にて、会計処理（主に領収証の発行）のため夏期セミナーの公印を作成することについて要望が出されたことが報告され、承認された。

#### 4. ワーキンググループ報告

##### ◎患者教育用パンフレット作成WG

患者教育用パンフレット作成WGメンバーの坂

本先生より、患者教育用パンフレットの作成メンバー募集およびその方法について説明された。

### 5. 3学会合同について

山田代表理事より、3学会合同の進捗状況について報告された。

- ・合併について会報および学会 WEB サイトを通じて意見を募った結果、1 件のみ賛成の意見が寄せられた。
- ・2010 年 4 月に合併することを目処にして法人化を進める方向であること、合併については各学会が総会で合意を得る必要があることが述べられた。
- ・3学会による認定制度検討委員会、2009 年合同学術会議実行委員会、法人化検討委員会が立ち上げられたことが報告された。このうち、法人化検討委員に理事が含まれていないことについて問題提起があり、その場で候補を募ったが決議に至らなかったため後日選出することとし、現段階での各委員会メンバーが承認された。  
各委員メンバーは次のとおり（以上五十音順）。  
定制度検討委員会：葛西理事、亀谷理事、竹村理事  
2009 年合同学術会議実行委員会：雨森理事、一瀬委員、三ッ浪委員  
法人化検討委員会：福士幹事（補佐として事務局より金本）
- ・日本医師会との総合医の認定にかかる委員会について、毎月ペースで会合が行われていることが報告され、アカデミックな団体として政治的に左右されない立場で協議を進めていくためにも 3 学会が合併して立場を明確にすることが望ましいとの発言がなされた。

### 6. 後期研修プログラムの申請について

（「3. 常設委員会・部会報告」内の「◎後期研修認定委員会」を参照）

### 7. 学会認定後期研修プログラム Ver.1 の解釈について

- ・執行部より、プログラムの移籍や中断等の取り決めや手続き方法について案が示され、加筆訂正を行ったうえで承認されることとなっ

た。

- ・指導医認定の要件（主に指導医養成講座の受講回数や期間、家庭医療指導医としての「教育方針」に関するレポート内容）について意見交換がなされた結果、FD 委員会で素案を作成することとなった。

### 8. 理事選出のための役員選挙について

- ・山田代表理事より、平成 20 年 7 月 1 日以降の役員選出にあたり、役員選挙規則に基づき以下の 4 名を選挙管理委員として任命したことが報告された。  
大橋博樹（川崎市立多摩病院総合診療科）、齊藤裕之（東京医科大学総合診療科）、福士元春（横須賀市立うわまち病院 臨床研修センター）、本村和久（王子生協病院）
- ・選挙管理委員が被選挙人となった場合の対応について協議された結果、選挙管理委員が立候補または推薦により当該選挙の役員候補者となった場合、その時点で解任となる旨を役員選挙規則に追加することとなった。
- ・役員選挙規則で、同一機関の選出者が 2 名までとなっていることについて、どこまでを同一機関と定義するかとの質問がなされ、選挙管理委員会に一任することとなった。
- ・森理事より、学会の役員選挙にあわせて若手家庭医部会の選挙を同時期に行うことについて要望が出され、承認された。

### 9. 第 22 回（2007 年）学術集会報告

今回欠席された白浜理事に代わり、山田代表理事より学術集会の会計報告がなされた。

### 10. 第 23 回（2008 年）学術集会について

今回欠席された葛西副代表理事に代わり、山田代表理事より学術集会の開催企画案が示された。参加者予定者数に対し、会場の収容人数が足りない点が挙げられ、場合によっては会場近くに別の施設を借りることも視野に入れて検討するよう葛西副代表理事へ依頼することとなった。また、プログラム構成の再考や公募ワークショップを増やすなどの案が出され、この件についても葛西副代表理事へ検討を依頼することとなった。

#### 11. 第24回(2009年)学術集会について

平成21年5月30～31日に京都国際会場にて開催予定の合同開催について、今後は2009年合同学術会議実行委員会で協議が進められること、学術集会前日の5月29日(金)に理事会を予定していることが述べられた。

#### 12. 平成19年度日本家庭医療学会 研究補助金「課題研究」の研究テーマについて

「高齢者医療と家庭医(在宅も含む)」というテーマで公募を行うこととなった。

#### 13. 特別賞(田坂賞)について

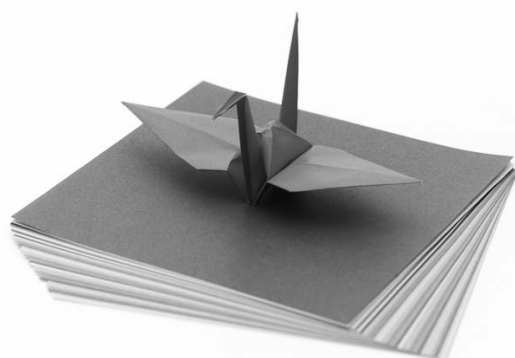
「田坂賞規定(案)」が提出され、公募時の事務作業費を学会負担とすることとあわせて承認された。

#### 14. 在宅医療推進会議について

山田代表理事より、白浜理事の代理として在宅医療推進会議の作業部会に出席したことが報告された。在宅医療推進会議での学会の立場や位置づけが曖昧なまま進んでいる実情が問題提起され、今後も正式メンバーとして作業する場合は、在宅について相互に協議できる場を要求したいとの意見が述べられた。第10回日本在宅医学会の後援について承認された。

#### 15. その他

- ・WEBサイトへの告知協力依頼があった「第2回次世代文化フォーラム～感情・身体・脳：人間知性と文化の進化～」について、今回は掲載しないこととなった。
- ・伴理事より、スコットランドのGPの副会長が12月半ばまで日本に滞在されていることが紹介され、交流や招聘を希望する場合の連絡先は岐阜大学医学教育センターであるとのアナウンスがあった。





MAY 31-JUNE 1 2008 at THE UNIVERSITY OF TOKYO



# 23th 日本家庭医療学会 学術集会・総会

テーマ **家庭医療の研究に取り組もう**  
～わたしたちのケアの質向上のために～

会期 **2008年5月31日(土)～6月1日(日)**

会場 **東京大学**

東京都文京区本郷 7-3-1

大会長 葛西 龍樹 (福島県立医科大学医学部 地域・家庭医療部教授)

事務局 第23回日本家庭医療学会学術集会・総会事務局  
〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目22-38 三洋ビル4F  
あゆみコーポレーション内  
TEL. 06-6449-7760 (学会専用)  
FAX. 06-6441-2055 (あゆみコーポレーション共用)  
E-mail : jafm2008@a-youme.jp

学術集会ホームページ  
<http://a-youme.jp/jafm2008/>

今後、詳細につきましては、ホームページにてご案内させていただきます。  
定期的にホームページの更新内容をご覧ください。

MAY 31-JUNE 1 2008 at THE UNIVERSITY OF TOKYO

**23th 日本家庭医療学会  
学術集会・総会**

**テーマ** 家庭医療の研究に取り組もう  
～わたしたちのケアの質向上のために～

**主要プログラム**

- 総会前夜祭**  
「日本家庭医療学会総会」  
懇親集會 (東京医科大学医学部 地域・家庭医療部)
- 開会式・シンポジウム**  
「家庭医療の研究に取り組もう～わたしたちのケアの質向上のために～」
- 総会開演プログラム**  
「エビデンスを基にした臨床実践」  
(シンポジウム・ディスカッション)
- シンポジウム(2部)
  - Prof. Dita Van Belle (NOVA, イタリア)
  - Prof. John Van Marck (KU Leuven, ベルギー)
  - Prof. Rainer Rappert (RWTH Aachen University, ドイツ)
  - Prof. Soth Lik Kea (NUS, シンガポール)
  - Prof. Cindy Lau (香港)
- 開会式・ワークショップ**  
「家庭医療の未来」  
「エビデンスを基にした臨床実践」  
「地域医療の未来」  
「家庭医療の未来」
- 第一夜演壇 (2部、ポスター)**  
総会開演ワークショップ (ポスター)
- 総学会誌発表会(ポスター)

**会期** / 2008.5.31(Sat)～2008.6.1(Sun)

**会場** / **東京大学**  
〒113-8654 東京都文京区本郷1-1  
アウスタ / 1F 演壇棟 最大演壇 / 地下鉄大江戸線 本郷3丁目駅 徒歩4分

**大会長** / 葛西龍樹 (福島県立医科大学医学部 地域・家庭医療部教授)

**ホームページ** / <http://a-youme.jp/jafm2008/>

**お問い合わせ** / 第23回日本家庭医療学会学術集会事務局 (日本家庭医療学会 常設事務局内)  
TEL. 06-6449-7760 FAX. 06-6441-2055 [jafm2008@a-youme.jp](mailto:jafm2008@a-youme.jp)  
〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目22-38 三洋ビル4F あゆみコーポレーション内

## 大会長あいさつ



プライマリ・ヘルスケアの重要性に言及した「アルマ・アタ宣言 (Declaration of Alma-Ata)」が1978年に発表されてからちょうど30年という節目の年に大会長を仰せつかりました。「アルマ・アタ宣言」と言っても若い学会員のみなさんは聞いたことがないかもしれませんが、世界のすべての人々の健康を守り増進することを世界中の関係者に力強く訴えたこの「宣言」は、日本でのプライマリ・ケアに関連する動きの原点とも重なります。確かにまだ21世紀が遠い未来に思えた時代に「西暦2000年までに世界のすべての人々に基本的な健康を」と訴えたタイムリミットは過ぎてしまい、この宣言の実効性について疑問視する人もいます。ただ、「宣言」に書かれているプライマリ・ヘルスケアの意義と活動内容の広がりは今でも読み応えがあり、むしろ今それが十分実現していないのは、現代社会で働くわたしたちの責任なのです。実現へ向けた計画・実践・連携・評価が不足しています。

「アルマ・アタ宣言」に盛り込まれているプライマリ・ヘルスケア（呼称は異なりますが本学会が目指す家庭医療と重なります）を地域社会で具体的なサービスとして実現するために必要なことが二つあります。そのひとつは家庭医療（プライマリ・ヘルスケア）の担い手の養成です。そのために本学会では標準的な家庭医療後期研修プログラムを作り全国でこのプログラムを利用して家庭医を養成する事業を平成18年度から始めました。

必要なことのもうひとつは家庭医療（プライ

マリ・ヘルスケア）の研究です。これも日本ではとても遅れており、この分野での世界的な研究はほとんど見つけられない状況です。他の分野の医学研究とは異なり、家庭医療の研究はわたしたちが行うケアの質を問うものです。ケアの質向上に直結します。わたしたちが行う教育の質についても問いかけます。わたしたちのケアの質向上のために、ぜひ家庭医療の研究に取り組みましょう。

幸いなことに、今回の学術集会では、家庭医療の研究における世界の代表的なエキスパートをお招きしてシンポジウムを開催し、さらに参加者のみなさんがエキスパートから直接研究について指導を受けるワークショップを行えることになりました。この企画に賛同し、実現に向け多大なご協力をいただいた英国のBMJ (British Medical Journal) 誌と福島県立医科大学、快く来日してくれるエキスパートのみなさん、そして会場を提供していただいた東京大学の関係者各位にお礼を申し上げます。

教育と同様、研究も短時間で成果があがるものではありません。わたしたちのケアの質が向上したかのアウトカムが示されるのは次の世代かもしれません。しかし、今回の学術集会で家庭医療の研究に興味を持った若い学会員のみなさんが、世界の家庭医とネットワークを築き、やがて世界的な研究を日本から発表することを考えると胸が躍ります。Academic family medicineの世界にもミッションを持つことになった者として、こうしたチャンスを提供するお手伝いができることを幸せに思います。

参加者のみなさんそれぞれにとって意味のある学術集会となることを願っています。

さあそれでは、学会場でお会いしましょう！

第23回日本家庭医療学会学術集会・総会 大会長  
福島県立医科大学医学部 地域・家庭医療部教授

葛西 龍樹

## プログラム

## ■リサーチ・シンポジウム

## 「家庭医療の研究に取り組もう～わたしたちのケアの質向上のために～」

家庭医療の研究をする意義と楽しさについて世界のエキスパートが語ります。

シンポジストの発表終了後、フロアも含めてディスカッションします。

シンポジスト（予定）：

- Prof Chris van Weel (WONCA 会長、オランダ)
- Prof Chris Del Mar (Bond 大学医学部長、オーストラリア)
- Prof Walter Rosser (WONCA 研究ワーキンググループ代表、カナダ)
- Prof Domhnall MacAuley (BMJ プライマリ・ケア部門編集長、英国)
- Prof Goh Lee Gan (WONCA アジア太平洋地域前会長、シンガポール)
- Prof Cindy Lam (香港大学家庭医療科主任、中国)

## ■リサーチ・ワークショップ

## 初級「診療からリサーチ・クエスチョンへ」

日常診療からどうやって研究アイデアを見つけ出すかのステップを学びたいレベル。

## 中級「リサーチ・クエスチョンから研究へ」

研究アイデアから具体的に研究をどう進めるかを学びたいレベル。

## 上級「研究から論文出版へ」

研究結果を論文として学術雑誌に投稿する技術を学びたいレベル。

## ■公開シンポジウム

## 「リサーチと世界の家庭医療」

世界の家庭医療の発展とそのなかで研究が果たしてきた役割について世界のエキスパートが語ります。

シンポジストの発表終了後、フロアも含めてディスカッションします。

シンポジスト（予定）：

- Prof Chris van Weel (WONCA 会長、オランダ)
- Prof Chris Del Mar (Bond 大学医学部長、オーストラリア)
- Prof Walter Rosser (WONCA 研究ワーキンググループ代表、カナダ)
- Prof Domhnall MacAuley (BMJ プライマリ・ケア部門編集長、英国)
- Prof Goh Lee Gan (WONCA アジア太平洋地域前会長、シンガポール)
- Prof Cindy Lam (香港大学家庭医療科主任、中国)

## ■会長講演

## 「日本の家庭医療の課題」

葛西 龍樹 (福島県立医科大学医学部 地域・家庭医療部教授)

## ■一般演題 (口演、ポスター)

## ■公募ワークショップ

## ■学会認定研修施設紹介 (ポスター)



# 学会認定後期研修プログラム（バージョン1.0）の 解釈について

平成20年2月10日

## 「4. 研修期間」の解釈

### ◆研修期間について

- ・後期研修期間が3年を超える場合、そのプログラムが定める研修の最終年度を以って、研修プログラム終了とみなす。

### ◆初期研修2年間について

- ・これまでは厚生労働省による2年間の新医師臨床研修を初期研修としていたが、当分の間、医師を養成する2年以上の臨床研修で学会が認定したものはその限りではない。

## 「6. 人材」の解釈

### ◆プログラム責任者、家庭医療指導医について

平成19年度認定：

- ・プログラム責任者・家庭医療指導医とも、日本家庭医療学会員で、これまでの家庭医療後期研修プログラム認定と指導医養成のためのワークショップに参加していること。

平成20年度認定以降：

- ・日本家庭医療学会員であること
- ・卒後6年目以降
- ・日本家庭医療学会主催の指導医養成講座を受講していること
- ・家庭医療指導医としての「教育方針」に関するレポートを提出

## 「7. プログラム内容」の解釈

### ◆診療所研修について

診療所：

家庭医（最低限、成人、小児、在宅医療を提供していて、地域の保健や福祉にもかかわる医師）が指導医として存在している診療所・小病院

期 間：

原則6ヶ月（ただし、特別な状況においては、3学会（日本家庭医療学会、日本プライマリ・ケア学会、日本総合診療医学会）の合併までは、1ヶ月以上のブロック研修および残りを分割しての研修も可能）

### ◆内科研修について

内科（臓器別内科でないこと）、総合（一般）内科、総合診療科での研修が行われる必要がある。ただし、家庭医の養成に必要と認められる範囲で一部を臓器別内科研修にて行ってもよい。



### ◆小児科研修について

3ヶ月一括でのブロック研修が望ましいが、月単位での分割も可能。

### ◆望ましい研修項目について

望ましい研修項目：

- ・外科、産婦人科などの項目は、「外科領域」、「産婦人科領域」などの診療内容をさす。
- ・人材（家庭医療指導医など）は全ての名前を挙げていただく。
- ・プログラム内容は、当面は「研修期間と場面」のみを記述し、将来的にはブループリントを提出する。
- ・プログラムを変更する場合には、「申請内容変更届出書」をダウンロードして学会事務局に申請し、これを学会が審査する。

## その他の解釈

### ◆プログラム認定期間について

- ・プログラム認定の期間は3年とする。

### ◆学会認定後期研修プログラム間での移籍について

後期研修の途中でプログラムの移籍は、原則として認められないが、以下の条件に合う場合は、学会の承認の後、それを認めることとする。

- (1) 研修プログラムが廃止された場合
- (2) 研修プログラムの認定が更新されなかった場合
- (3) 研修医にやむを得ない理由がある場合

なお、この場合は、研修医、前研修プログラム責任者、新研修プログラム責任者の連名で学会に「移籍届出書」を提出すること。

### ◆プログラムの中断について

以下の場合、プログラムを中断し、のちに、そのプログラムへの復帰を許可する。

- (1) 病気
- (2) 産休（施設が定める期間）
- (3) 育児休（施設が定める期間）
- (4) その他の理由（家族の問題など）

プログラムを中断する場合は、その研修プログラム責任者は学会に「中断届出書」を提出し、学会の許可が必要となる。この場合、事後に許可する場合もある。

## 平成20年度 臨床研究初学者のための勉強会

- 期 日 第1回 平成20年 4月27日(日)  
第2回 平成20年 6月22日(日)  
第3回 平成20年 8月30日～31日(土・日)  
第4回 平成20年10月19日(日)

場 所 東京医大 (第1回)  
第2回以降は未定 (都内)

対 象 者 臨床研究初学者 (後期研修医以上、学会員に限る)

参 加 費 5,000 円 (各回徴収、4 回で 20,000 円)

定 員 16 人 (先着順)

参加条件 全日程参加可能な方  
事前課題をこなせる方  
近いうちに臨床研究を始めたい、もしくは発表しようとする方

申込開始日 2008年3月3日(月) 10:00より

申込方法 メールにて、  
件名に「平成20年度 臨床研究初学者のための勉強会」、  
本文に「(1)氏名、(2)所属、(3)卒業年、(4)メールアドレス」を明記のうえ申し込んでください。  
※受付は先着順とさせていただきます。若干名の募集ですので、ご希望にそえない場合がございます。  
予めご了承ください。

申 込 先 pc-researchers@gmail.com

対象研究 量的研究 (観察研究を含む)

事前課題 読書課題 (参加者決定後、詳細を通知)

第1回開催までに、各自研究テーマの案を持参  
第2回以降も、事前課題が課される

内 容 4人で1チーム、1つのリサーチ・クエスチョンから研究アウトライン作成を目指してグループ作業を行う。  
(自分のRQを進めたい参加者については、勉強会当日のみメンタリングに応じる)

- 第1回(目標:RQの決定)…………… それぞれのリサーチクエスチョン、PICOを議論  
統計学的知識(信頼区間、P値、オッズ比)のおさらい  
[読書課題(研究デザイン、臨床疫学)の確認、質疑応答]
- 第2回(目標:研究デザインの決定)…… それぞれのリサーチクエスチョン、PICOを議論  
研究デザインを議論
- 第3回(目標:サンプルサイズの決定)…… それぞれのリサーチクエスチョン、PICOを議論  
研究デザインを議論  
サンプルサイズ、統計の方法を紹介、レクチャー
- 第4回(目標:研究アウトライン作成)…… 各グループの研究アウトライン発表

詳細等につきましては下記HPにて随時ご案内致します。

<http://jafm.org/cp/>



平成20年度

## 第1回 家庭医療後期研修プログラム指導医養成のためのワークショップ

日 程／ 平成20年4月12日(土)～13日(日)

開催場所／ 東京(会場未定)

H P / <http://jafm.org/fd/>

内容等決まり次第、上記HP上にてご案内致します。

## 4月に役員選挙があります

特定非営利活動法人日本家庭医療学会では、現役員の任期が平成20年6月30日付となりましたため、定款第13, 14, 15条および役員選挙規則にもとづいて、本年4月に役員選挙を行います。

役員選挙規則により、山田代表理事から4名の会員の方が選挙管理委員として依託を受け、去る12月6日に第1回選挙管理委員会が開催されました。ここでは選挙管理委員長の互選、選挙日程作りなどが行われました。

選挙管理委員：齊藤裕之（委員長）、大橋博樹、福土元春、本村和久

### 選挙権者（投票できる人）：

学生会員も含む全会員です。ただし定款第7条により、会員となるには理事会の承認を得る必要があります。現在、入会申込があり年会費の入金があれば便宜的に会員としての活動（会誌・会報の送付、メーリングリストへの加入など）を開始していただいておりますが、選挙権は平成20年2月10日の理事会で入会が承認された方（平成20年1月31日までに入会申込および年会費を入金された方）までに限ります。

### 被選挙権者（候補者となれる人）：

選挙権者の条件を満たす正会員で、平成20年7月1日時点で満65歳未満の人です。

選挙者・被選挙者については、会報第62号に同封いたしました選挙者・被選挙者名簿にてご確認ください。

### 今後の主な選挙日程（予定）：

平成20年2月下旬 選挙公告、立候補および推薦受付開始（会報第62号に同封）  
3月15日（土）立候補および推薦締切  
3月20日（木）被選挙者名簿送付  
4月1日（火）投票受付開始  
4月15日（火）投票締切（必着）  
4月24日（木）開票  
5月31日（土）新役員招集（新代表理事互選など役職の決定）  
… 第23回学術集会にあわせて（東京にて）  
7月1日（火）新役員就任  
8月10日（日）新理事会開催 … 夏期セミナーにあわせて（新潟にて）



## 三重県立一志病院 パート2(後期研修)

三重県立一志病院 院長 飛松 正樹

三重大学医学部附属病院総合診療部・大学院医学系研究科家庭医療学  
准教授 竹村 洋典

三重県立一志病院は、三重県津市の山間地に位置する地域の小さな病院である。当院では、昨年4月から従来の内科の表示を「家庭医療」として、家庭医療の実践、家庭医の養成、そして家庭医療の研究に取り組んでいる。今回は前回の家庭医療学クリニカルクラークシップに引き続き、当院での後期研修について紹介したい。

三重大学家庭医療学プログラムは、平成18年度から日本家庭医療学会の後期研修プログラムとして認定を受けている。平成18年度までは主として三重大学医学部附属病院を研修の場としてきたが、平成19年4月からは三重県立一志病院を主な研修の場として後期研修を開始した。この家庭医療学後期研修は3年間のプログラムであり、概ね1年以上をこの地域病院で研修することができる。後期研修中は、他に地域総合病院の総合内科、小児科、産婦人科、整形外科、皮膚科等も研修することになっている。エレクトティブでは、臨床技術研修、アメリカ家庭医療学研修、オーストラリア家庭医療学研修、僻地離島研修、などが履修されている。ここ一志病院では、このようにして身につけてきたことを活かしながら地域の家庭医として継続的で近接的な診療に携わり、家庭医としての能力にさらに磨きをかけることができる。3年間の後期研修の後は1年のフェローシップが用意されていて、先進的な家庭医療学の教育研修方法を習得したいもの、家庭医療学特有の研究を行いたいものは、このコースに入ることができる。特に2年間、一志病院などをフィールドに行動科学を中心とした家庭医療に関わる臨床研究に取り組めば、三重大学から医学博士号が授与される可能性がある。

当院の後期研修医は、地域の外来診療や入院診療にかかわるほか、訪問診療、ときに救急外来診療と様々な環境での診療を行っている。さらに健診・検診、予防接種や地域住民に対する健康教室、近隣の学校保健活動(校医)など、地域の健康集団に対する予防医療にも関わっている。また、三重大学クリニカルクラークシップの学生(必修+選択)に対する臨床指導も経験し、家庭医療教育の基礎を学習してもらっている。

後期研修医の教育には、複数の指導医が関わるような体制になっている。大学スタッフと当院常勤医により、外来診療では、毎日プリセプターが決まっている。外来症例は、診療後にプリセプターによるカルテチェックを受け、またビデオ撮影を行った診察については、ビデオレビューを行っている。プリセプターによるチェックでは、疑問点のみでなく、できているつもりでできていなかったこと、気づいていない点について指摘され、これを改善するよい機会となる。ビデオによるレビューは、自分自身の診療を省察する機会を与え、また、患者中心性など家庭医を特徴付ける能力を教育する効果的な方法となっている。入院症例については、毎日のモーニングカンファレンスで診断計画や治療計画を確認している。緊急性を要する場合には、直接指導医が判断せざるを得ない場合もあるが、基本的には、後期研修医の自律性を重視している。毎週火曜の夕方は、症例検討会を開催し教育的なケースや困難なケースのデイスカッションをしている。

家庭医療の第一線であり、後期研修医にとっても期待の高まる研修期間であるが、ときには厳しい壁に当たり悩む姿が見られる。

糖尿病、慢性閉塞性肺疾患などで通院中であるがなかなか食事療法や吸入治療へのアドヒアランスが悪く治療が上手くいかない患者さんやうつ病で治療中であるが家族関係からなかなか改善が見出せない患者さん。至急・緊急の問題では、頭痛や胸痛で受診したが、クモ膜下出血や心筋梗塞など緊急性の疾患も否定できず、迅速に専門医への紹介をしなければならない患者さんたち。入院診療では、脳梗塞後遺症、誤嚥性肺炎で食事困難となっており、今後の栄養管理について悩んでしまうような患者さんの診療。慢性心不全のため在宅酸素療法で、ここ最近症状の悪化がみられ入院を勧めるも本人が入院を拒否する場合。それぞれの場面において、biomedicalなアプローチはもちろんのこと、時に psychosocial な person centered care が必要な場合もかなり多い。患者さんや家族とのコミュニケーションを通じて、このような診療を行おうとするが、一筋縄ではいかない。なかなか上手くいかない、この判断で良かったのだろうか、どうしたらいいのだろうか日々悩む。慢性疾患の場合には、継続して関わっていくなかで、良い方向へ導かれることがある。他の至急・緊急の問題で受診したことをきっかけに患者医師間の信頼関係が高まったり、他の家族が受診したことをきっかけに家族が治療に協力的になったりする。急性の問題で専門医へ紹介した患者さんも、後日の診療で元気な顔を見せてくれる。

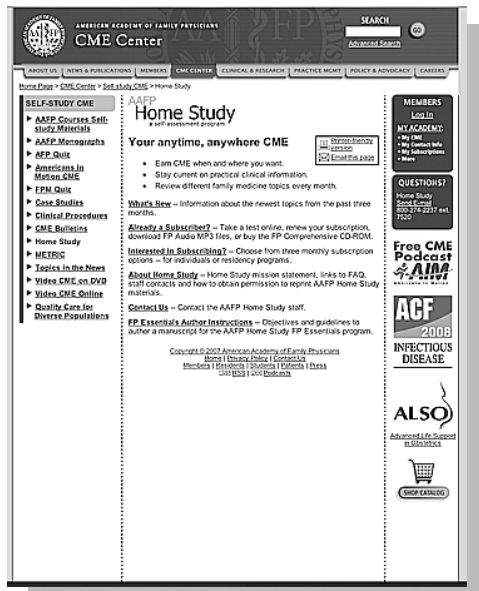
その後の患者さんの状態から自分の診療へのフィードバックがかかる。困難なケースでも患者さんや家族と共に悩みなんとか解決へ導かれたとき、患者さんを中心とするさまざまなメディカルを含む診療チームのなかで関わったことにある達成感を感じる。当院での診療について後期研修医に聞くと、「患者さんとの距離が近く、地域との距離が近くなり、早く良くなってほしいという気持ちが強くなった。」と答えた。責任のある立場で患者さん、家族、地域と関わることで後期研修医は患者さんやその地域から良い指導を受けていると感じる。

このような症例については、ポートフォリオを記入させ、それを指導医と共有することによって今後の家庭医療の診療に反映させるようにしている。

一志病院での研修は、まだ平成19年4月から開始したばかりである。後期研修プログラムとして十分な体制をとっているつもりではあるが、まだまだ改善の余地が残っていると思う。しかし、ここでのローテートを終えた後期研修医が去った後に、外来待合室で患者さんから「N先生は、いつ戻ってくるのですか。」と聞いたり、救急外来で「今日、Y先生はいないのですか？」という声を聞いたりすると、すでに彼ら・彼女らが家庭医として患者さんから困ったときに相談にのれる関係を築いてきたのだと感じる。



# 「生涯学習（CME）に役立つツール」特集



トータルファミリーケア北西医院  
北西 史直

今回は、英語（英会話）の勉強にもなる教材の紹介をします。

American Academy of Family Physicians(AAFP) の“Home Study”です。毎月家庭医にとって非常にトピックな話題について、講師のインタビューを録音して、CD で送ってくださいます。例えば最近の話題は、「軽度外傷性脳損傷」、「高齢運転手の評価」、「骨折」、「てんかん」、「介護者のストレス」、「冠動脈疾患」などです。

数年前に故田坂佳千先生に薦められて定期購入を始めました。AAFP 会員でなくても、購入できます。移動の時などちょっとした時間の空いたときに重宝します。英会話が苦手な私ですが、医療ネタですので、サマリーを参考になんとかついていけます。HP からもダウンロードできるようです。

興味を持たれた方は AAFP のホームページをごらんください。

<http://www.aafp.org/online/en/home/cme/selfstudy/homestudy.html>

# Scene 「田坂佳千先生メモリアル出版」

## 発行のお知らせ



“Scene”は、まさにプライマリ・ケア医にとって「痒いところに手が届くように」、田坂先生が、執筆者と激論を闘わせながら監修した生涯教育の為のシリーズです。

日本家庭医療学会では、このシリーズを田坂先生のメモリアル出版として合本出版するに到りました。極めて実践的な本書は、家庭医の座右の書として活用していただけるものであることを信じて疑いません。是非ご購入下さい。

尚本書は、田坂先生もその一員であった「日本家庭医療学会 生涯教育委員会」が分担して編集に当たりました。

本書を謹んで田坂佳千先生の墓前に捧げます。

日本家庭医療学会 生涯教育委員会

伴信太郎（委員長）、武田伸二、雨森正記、一瀬直日

『Scene』の購入をご希望の方は、下記事務局宛てへE-mail、FAX、郵送のいずれかで「冊数」と「送付先(住所・電話・メール)」をご記載のうえお申し込みください。折り返し、ご購入手続きについてご案内申し上げます。

A4版/P71/フルカラー

1冊の頒布価格：1800円（送料別途）

お問合せ先：

特定非営利活動法人 日本家庭医療学会事務局

550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目22番38号

三洋ビル4F あゆみコーポレーション内

TEL.06-6449-7760

FAX.06-6441-2055（代）

E-mail : jafm@a-youme.jp

URL <http://jafm.org/>

### ～主な掲載内容～《目次より》

#### 症状から診る

めまい	植村 研一（横浜市立脳血管医療センター）
動悸	伊賀 幹二（伊賀内科・循環器科）
咳嗽	高野 義久（たかの呼吸器科内科クリニック）
頭痛	木村 真司（札幌医科大学医学部）
全身倦怠感	松下 明（奈義ファミリークリニック、三重大学、川崎医科大学）
血尿	松木 孝和（松木泌尿器科医院、香川大学医学部） 横井 徹（横井内科医院）
腰痛	仲田 和正（西伊豆病院）
皮疹	平本 力（石岡・平本皮膚科医院、自治医科大学）
認知症	杉山 孝博（川崎幸クリニック）
尿失禁	倉澤 剛太郎（西吾妻福祉病院）
かぜ症候群	田坂 佳千（田坂内科小児科医院）
脳卒中	橋本 洋一郎（熊本市立熊本市民病院）
しびれ	鈴木 幹也（東埼玉病院） など

# 事務局からのお知らせ



## メーリングリストの加入について

メーリングリストに加入してコミュニケーションの輪を広げよう！

現在、約1,000名の会員が参加しています。希望者は以下の要領で加入してください。

### ◎参加資格

日本家庭医療学会会員に限ります。

### ◎目的

メーリングリストは、加入者でディスカッショングループを作り、あるテーマについて議論したり、最新情報を提供したりするためのものです。家庭医療学会の発展のために利用していただけたら幸いです。

### ◎禁止事項

メールにファイルを添付しないでください（ウイルス対策）。個人情報をごのリストの中に流さないでください（自己紹介は可）。ごくプライベートなやりとりを載せないでください。

### ◎加入方法

学会のホームページの「各種届出」のページから申し込むか、事務局宛に次の事項を記入の上、E-mailで申し込んでください。

- 会員番号（学会からの郵便物の宛名ラベルに記載されています）
- 氏名
- 勤務先・学校名
- メールアドレス

会員であることを確認した上で登録いたします。

事務局メールアドレス：E-mail：jafm@a-youme.jp



## 入会手続きについて

当学会に関心のある方をお誘いください。学生会員も大歓迎です。入会手続きについては、学会のホームページの「入会案内」をご覧ください。事務局までお問い合わせください。

## 会費納入のお願い

会員の皆様の中で、会費の納入をお忘れになっている方はいらっしゃいませんか。ご確認の上、未納の方は早急に納入をお願いいたします。2年間滞納されると、自動的に退会扱いとなりますのでご注意ください。ご不明な点は事務局へお問い合わせください。

## 異動届けをしてください

就職、転勤、転居などで異動を生じた場合はなるべく早く異動届けをしてください。異動届けは学会のホームページの「各種届出」のページからできます。または事務局宛にE-mail、FAX、郵便などでお知らせください。

## 編集後記

3学会合同役員会の報告や今後のワークショップ・総会案内、役員選挙案内などかなりホットな情報がつまった会報となりました。

学会の合併について、そして後期研修プログラム関連の情報などホームページでも随時情報がながれますので、定期的にチェックをお願いします。生涯教育のセクションは家庭医療学会の生涯教育担当の方に順番に書いていただいております。

発行所：

特定非営利活動法人 日本家庭医療学会事務局

広報委員：

松下 明（会報担当理事）、三瀬順一

〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目22-38 三洋ビル4F

あゆみコーポレーション内

TEL 06-6449-7760 / FAX 06-6441-2055

E-mail：jafm@a-youme.jp

ホームページ：http://jafm.org/